



jica ジャイカ

2015年

62

秋号

2015年10月1日(木)発行

HOKKAIDO  
INTERNATIONAL  
CENTER(OBIHIRO)

JICA北海道(帯広)ニュース

「もしり」とは、アイヌ語で大地の意味。  
北の大地から、国際協力の「今」を伝えます。

<http://www.jica.go.jp>

# 世界のともだち

7月5日(日)、夏の恒例イベント「世界のともだち」が開催されました。このイベントは、研修員との交流などを通じてJICAが行っている国際協力事業を地域の方々に知っていただく目的で、毎年行っているものです。今年も天候に恵まれ、当日は昨年度を上回る約2,500人が来場しました。

## ザ・屋台



世界の料理が楽しめる「ザ・屋台」コーナーには12ブースが出店。イベント会場はおいしい香りでいっぱい!

## ステージ



今年は4団体が出演しイベントを盛り上げてくれました。写真は帯広カポエイラサークル。

## 「Hello!JICAfE」公開収録



FM-JAGAのDJ mihoさん司会で、クイズや研修員とのゲームを実施し、大勢の方が参加しました。

## キッズコーナー



大谷短期大学生ボランティアによる手遊びで、子ども達も大喜び!会場をもりあげてくれました!

## JICAブース



色とりどりの世界の衣装を試着体験!記念撮影をする方もいました。

# Hello! JICAfE 好評放送中!!



帯広を中心とするコミュニティラジオ放送局FM-JAGAの人気DJ、mihoさんの番組“TRIP AROUND THE WORLD”。その中で、JICA北海道(帯広)の情報をお届けするコーナー「HELLO! JICAfE」が毎月第2・第4土曜日に放送されています。2005年にスタートしてから今年でちょうど10年目を迎えたこのコーナーには、これまでに94ヵ国から600人以上が出演しました。番組では、JICA北海道(帯広)に滞在中の研修員が季節に合わせた旬なテーマで母国を紹介します。また、JICAボランティアOB・OGによる途上国での体験談や、JICAの事業に関わってくださっている地域の方々の声もお届けていきます。ユニークで楽しい研修員達からの世界のホットな情報を是非お楽しみに!

放送時間:毎月第2・第4土曜日 12時30分~13時00分

77.8MHz FM-JAGA 帯広

## DJ mihoさんよりメッセージ

Q1 これまでに印象に残っている研修員は?



毎回すてきな出会いをいただく時間がですが、特に印象に残っているのはカリブの国からやってくる研修員のみなさんです。私はサルサに興味があり、レッスンに通っていたこともあります。どんな国なのか、どんな人たちが暮らしているのか、どんな文化があるのかなどなど、気になることばかりでした。明るい音楽とダンスが日常にある国からやってくる研修員のみなさんは、イメージのまま!行ってみた~!!

Q2 番組に対する思い?



まだまだ本当のところを知られていない国についてお伝えしたいと思っています。日本で目や耳にするニュースなどで伝えられる内容から、勝手なイメージを持ってしまっている国がたくさんあります。研修員のみなさんが持つ魅力を通して、その国の“リアル”を感じていただきたいですね。外国の日常を知ると、身近に感じられたり、行ってみたいと思えたりします。少しでもJICAを通して外国に興味を持っていただけるような番組をこれからもお送りしていきます!



# 世界から日本へ 研修員 **eye** アイ

## エルサルバドルからやって来たロベルトさん

&lt;エルサルバドル共和国&gt;



研修コース:「自然・文化資源の持続可能な利用(エコツーリズム)A」

■名前:ロベルトさん

■出身:エルサルバドル共和国

Jola (オラ)

(エルサルバドルの言葉、スペイン語で“こんにちは”)

Q1 エルサルバドルって  
どんな国?

中央アメリカの真ん中に位置する国で、国は小さいですが、人々の心は大きく、夢も大きく、元気あふれる国。コーヒー、カカオ、さとうきびの生産が盛んです。

Q2 JICAには何を学びに  
來たのですか?

エルサルバドルでは環境への取り組みが始まったばかりです。日本の進んだエコの取り組みや技術を学び、國に導入するために來ました。

Q3 日本での暮らしは  
いかがですか?

日本人は優しく、礼儀正しく、計画的に行動し、街はキレイで気候も快適です。たこ焼き、すき焼き、漬け物、日本の食べ物はみな大好きです。

Q4 日本滞在中、訪れてみたい場所は?

日本の歴史に興味があり、特に幕末の頃が大好きなので、新撰組、土方歳三ゆかりの町である函館をぜひ訪れてみたいです。



## ボランティアの 現場から



温かくなるときに咲くジャカランダ。日本でいう桜のような木です。

配属先のマルコムモファット教員養成学校は第一回目の卒業式をを迎えます!

JICA北海道(帯広)には、研修員受入事業として開発途上国で必要とされている知識や技術を学ぶために各国から研修員たちが来日しています。彼らは帰国後、自國の発展のために指導的な役割を果たすことが期待されています。

## ～JICA研修を支えてくださっている方をご紹介します～

### 課題別研修

自然・文化資源の持続可能な利用

(エコツーリズム)コース

釧路国際ワーキングセンター技術委員長

新庄 久志さん

Q1 国際協力(JICA研修事業)に  
携わるようになったきっかけを  
教えてください。

1995年、釧路で開催された第5回ラムサール条約締約国会議を契機に、ラムサール条約を地域レベルで推進するために、釧路国際ワーキングセンターが設立されました。それまで、環境省や釧路市で、ラムサール条約にかかわっていたことから、1994年、環境省が所管するJICA研修「湿地及び渡り鳥保全コース」をコースリーダーとして担当することになりました。その後、1998年より「自然公園の管理・運営と利用(エコツアー)コース」が加わり、幾度かの改善が重ねられ、現在は、「地域振興に寄与する持続可能な湿地資源の利用(湿地保全)コース」と「自然・文化資源の持続可能な利用(エコツーリズム)コース」を担当しています。



エコツーリズムを推進する  
カウンターパート(モンゴル)

Q2 JICA研修に対してどのような想いでご協力いただいているですか?

先進国と発展途上国との関係は、日本における首都圏と地方の関係によく似ています。両者が適切な関係で交流・提携しつつ、自然環境との賢明な関係を維持しながら、発展途上国と地方が健全に発展していくために、幾らかでも本研修が役に立つことができればと願っています。

Q3 思い出に残っている研修員がいましたら国やエピソードを教えてください。

これまで66ヶ国、357名の研修員が、担当する研修コースを修了して、各国で活躍しています。ラムサール条約締約国会議では、國の代表になっている研修員と再会の喜びを分かち合いました。湿地保全の国際ワークショップでは、会議の運営に奔走する研修員と交流することができました。帰国研修員が、青年海外協力隊員と日本文化を紹介するワークショップを開催したという報告もあります。研修終了後、いくつかの国でJICAプロジェクトがスタートし、現地を訪れてプロジェクトのカウンターパートとして活躍する研修員と討議を重ねたりもしました。日本の研修プログラムでお世話になった方が、研修員の國に訪れ、交流を続けているという報告もあります。JICA研修は、研修に携わる日本各地の人々と研修員の様々な交流・連携に、有形無形のサポートをする役割を担っていると思います。



日本文化を紹介するワークショップを  
運営するラウラさん(アルゼンチン)

## 青年海外協力隊



片山 一之さん

派遣国:ザンビア

出身:佐呂間町

職種:PCインストラクター

派遣期間:2014年1月~2017年1月



私はアフリカ南部のザンビアという国で将来学校の先生になる学生に対してパソコンを教えています。2014年1月からこの国に来ています。この度、任期を1年延長することになり、2017年1月までいることになりました。任期延長した理由は、配属先のマルコムモファット教員養成学校でパソコンのカリキュラムを完成させるためです。当初の予定では小学校の先生になる学生だけのコースしかなかったのですが、2015年に入り、中・高校の理科と数学の先生のコースも新設されたので、そのパソコンのカリキュラムも作ることになったからです。私は初代のボランティアということで、しっかりこの学校的パソコンの授業のカリキュラムの基礎を固めたいと思います。ここ最近のザンビアでの出来事は昨年、ザンビアは独立50周年を迎え、國中がお祝いムードになりました。しかし、その後に現職大統領が亡くなるという悲報も。また、今年のザンビアは計画停電が続いて



独立50周年で作った服で記念撮影。上下だとパジャマみたい?!

います。ザンビアの電力は主にカリバ湖という大きな湖ダムの水力によって作られているため、今年のように雨季の雨量が不足すると十分な電力が発電できず、毎日決まった時間になると電気が止まってしまうのです。最初は不便に感じていましたがだんだん慣れてきました。こんな感じで元気に過ごしています。